

# 防災研究所 地震津波連携研究ユニット Joint Research Unit for Tsunami Hazard

- 令和3年8月1日 発足
- ユニット長 平石哲也（令和4年3月まで）
- 副ユニット長 矢守克也（巨大災害研究センター）
- 活動期間 令和3年8月～令和8年7月
- 迫りくる南海道地震津波等の巨大津波災害に備えて、防災研を横断する連携研究を強化し、事前復興・避難スイッチ・地域連携などのキーワードを持つ研究を通して、減災を図る。

# 地震津波連携研究ユニットの重要性

## これまで 内部状況

- 誰がどのような研究をしているのかわからない
- 方向性がバラバラ



- 津波を冠した分野・領域が存在しない
- 南海東南海地震津波に対する社会的ニーズ

## 対外的状況

宮崎観測所  
高知県黒潮町等  
白浜海象観測所

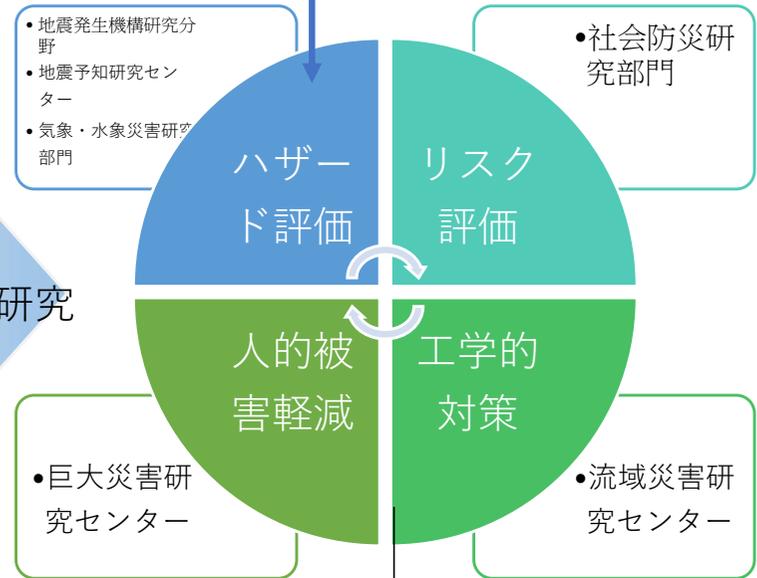
特定地域の  
リスク評価  
研究成果の  
社会実装

## あるべき姿

### 内部状況

- 定期的なミーティング
- 相互の情報交換効果
- 防災研全体の研究方向性の明確化

SATREPS Mexico  
JAMSTEC 地震防災情報創生研究  
を基盤に組織化



連携研究テーマ例  
避難に関する研究  
経済被害軽減に関する研究

地震津波研究の見える化

- 拠点研究第4期目標
- 大型研究資金獲得

## 対外的状況

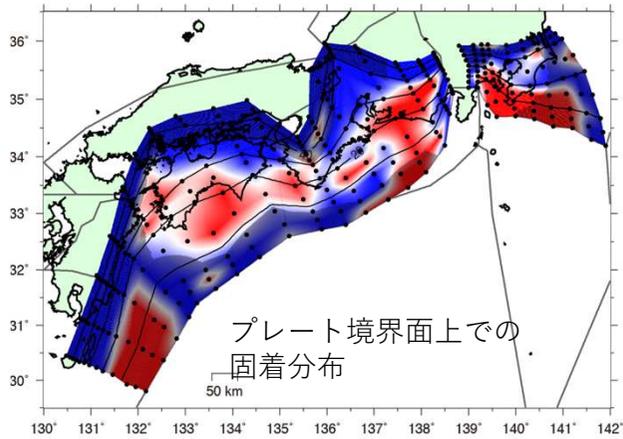
8月10日 (火)

ユニット

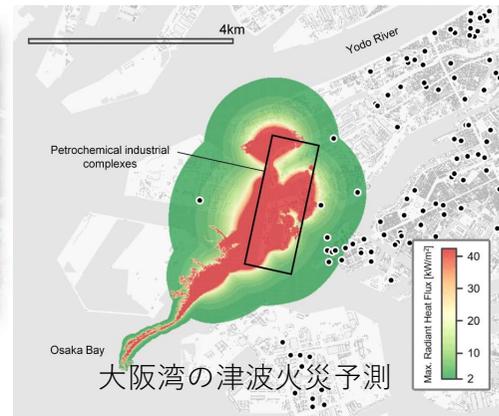
- ・ プレミリーディング

立ち上げメンバーの現在の関連する研究課題の紹介と、

連携していく研究計画の提案を全員で確認した。

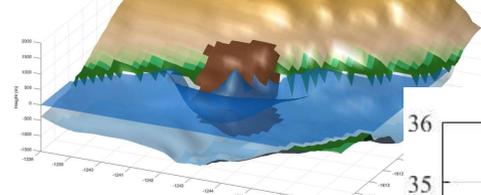


1662日向灘地震津波の供養碑



「逃げトレ」の観測所との連携と社会実装

地すべりに起因する津波



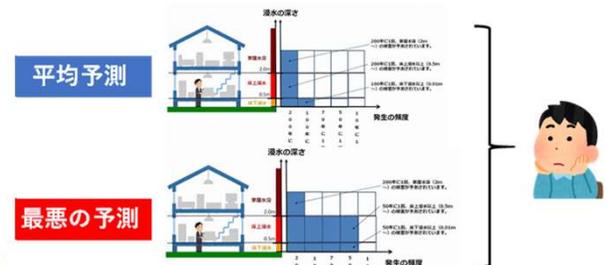
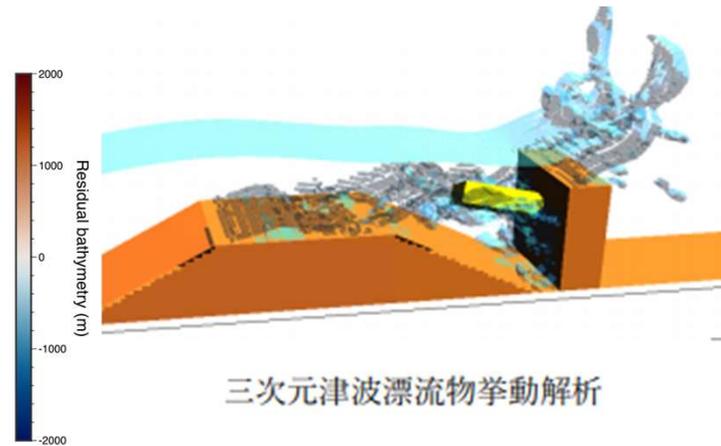
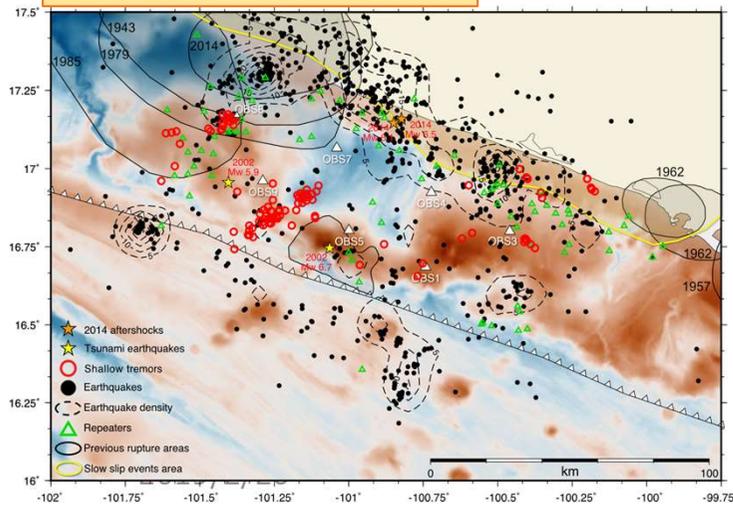
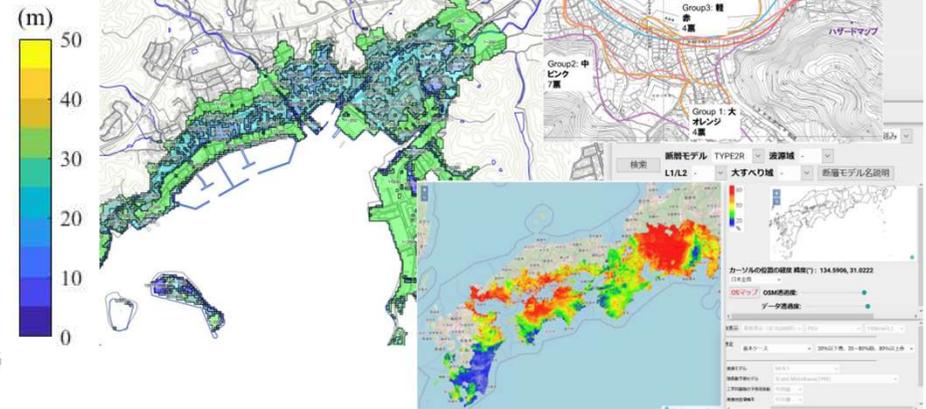
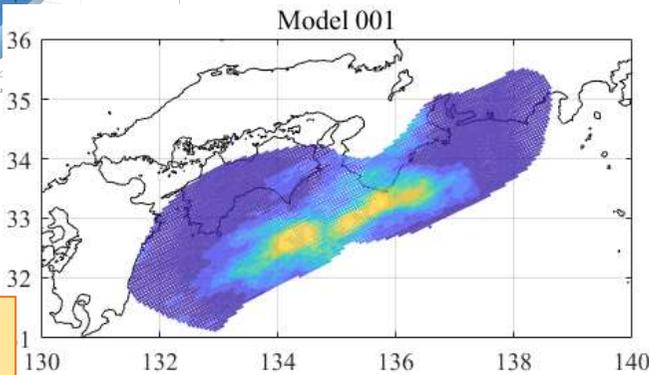
地震の物理的発生過程を考慮した地震シナリオ作成と市街地の複合被害予測

SATREPSメキシコの成果を基にして、活用する。

震源・波源モデル

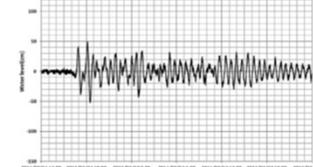
ハザード情報の高度化と避難支援ツール開発

3Dモデルによる高度な浸水情報の提供と新たな総合津波対策

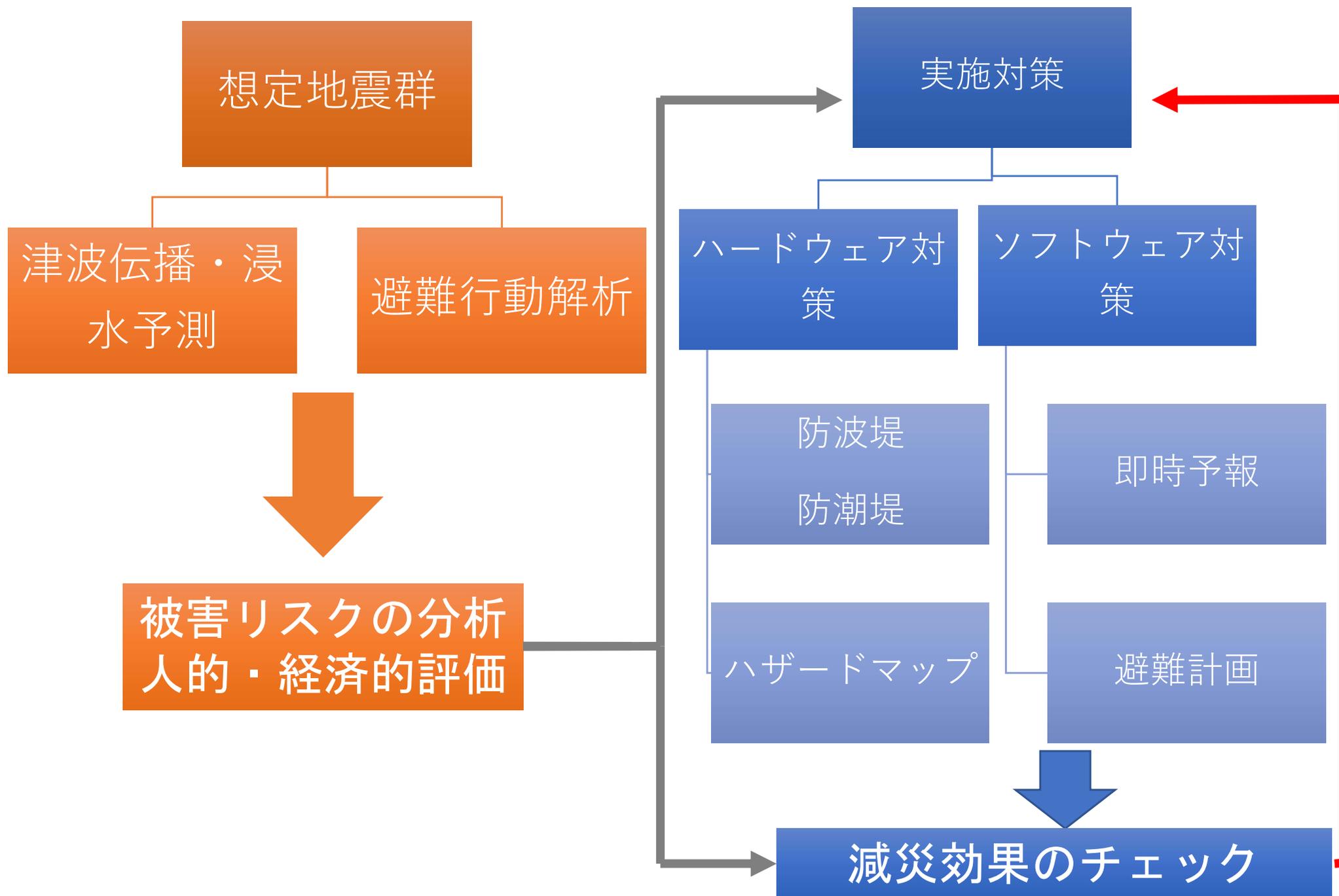


不確実性を考慮した被害予測

観測津波波形の活用



# 総合的な減災対策の展開



# 地震津波連携研究ユニット 研究グループリング

2021/8/19

地震

イベント

津波モデル

対策

社会経済

地すべり

社会連携

10月30日（土）

# キックオフミーティング

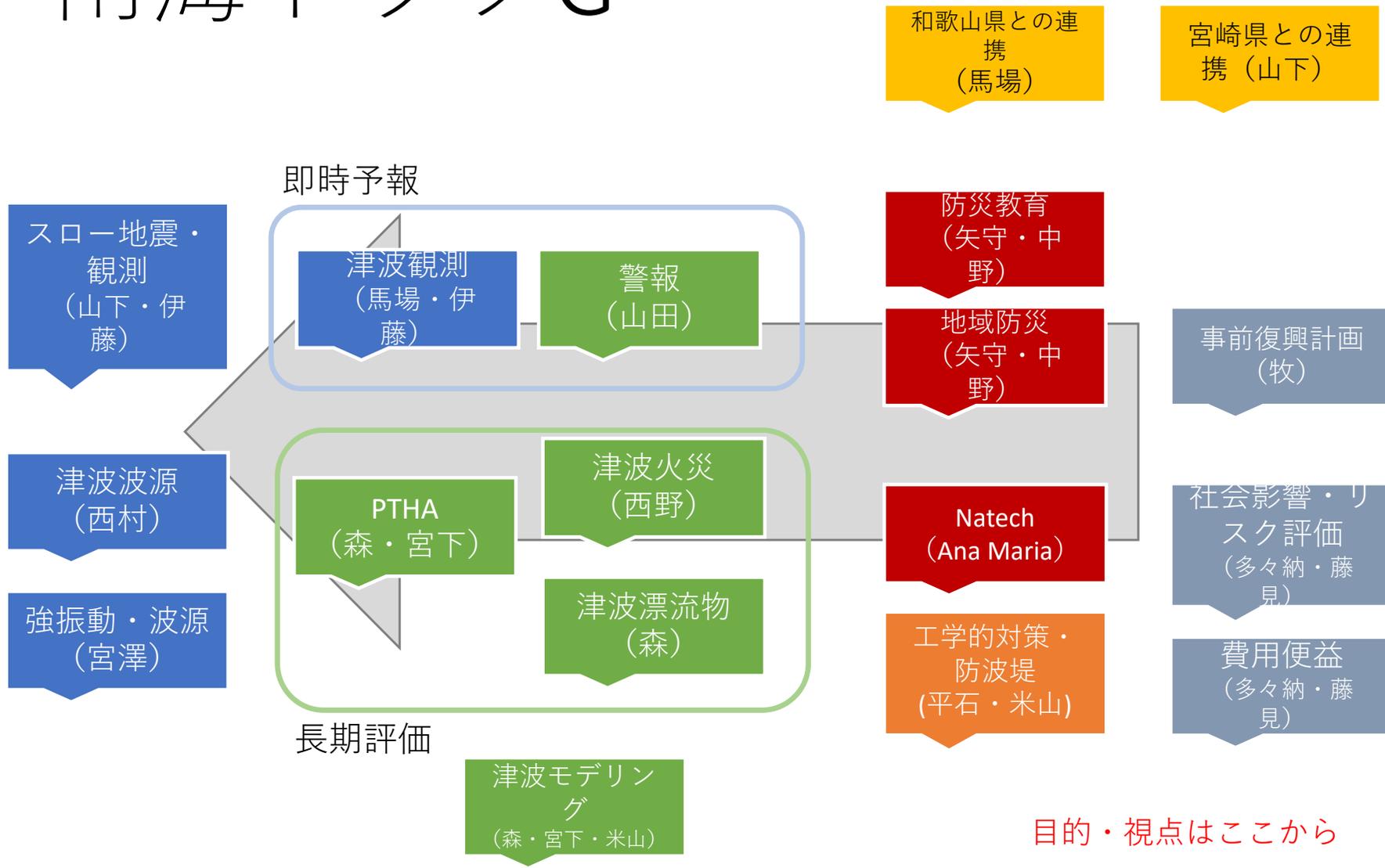
連携研究ユニットのサブユニットへのグルーピング化と各グループにおける研究目標の提示。

さらに、グループ間の連携によるユニットとしての方向性の議論。

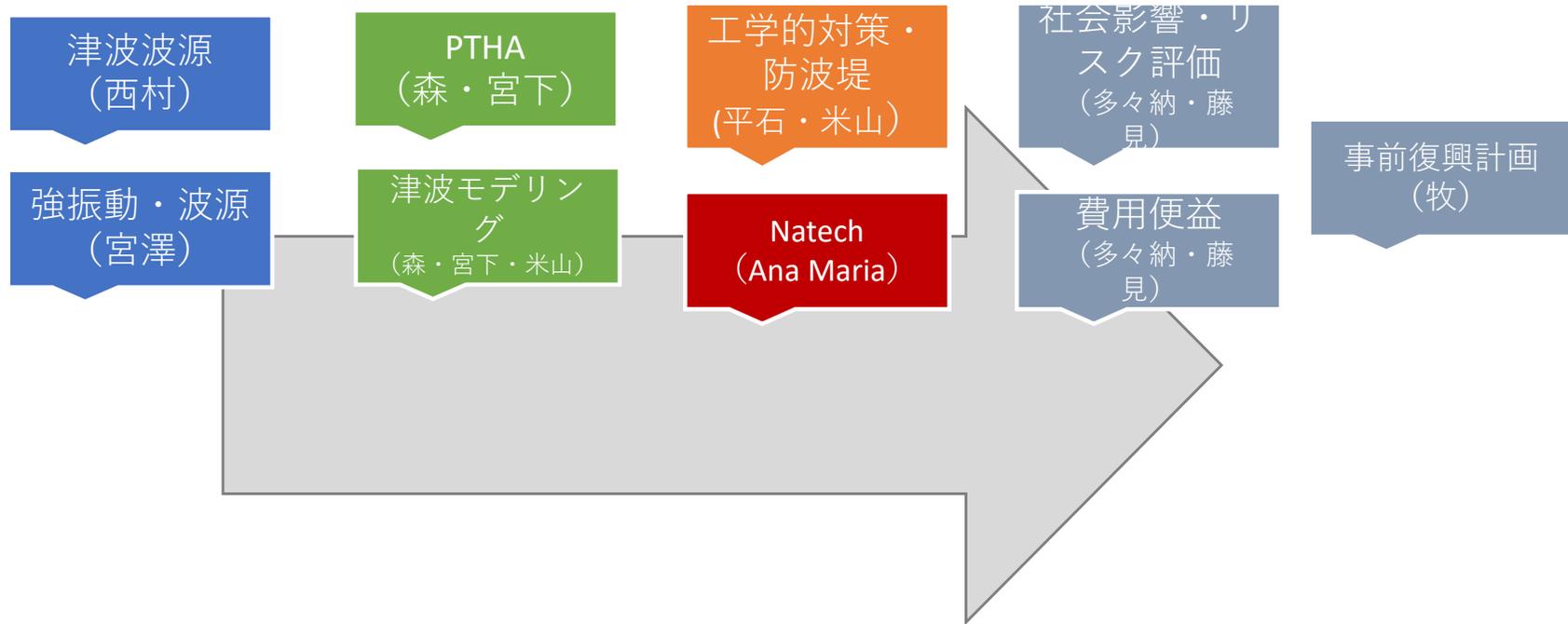
# 全体



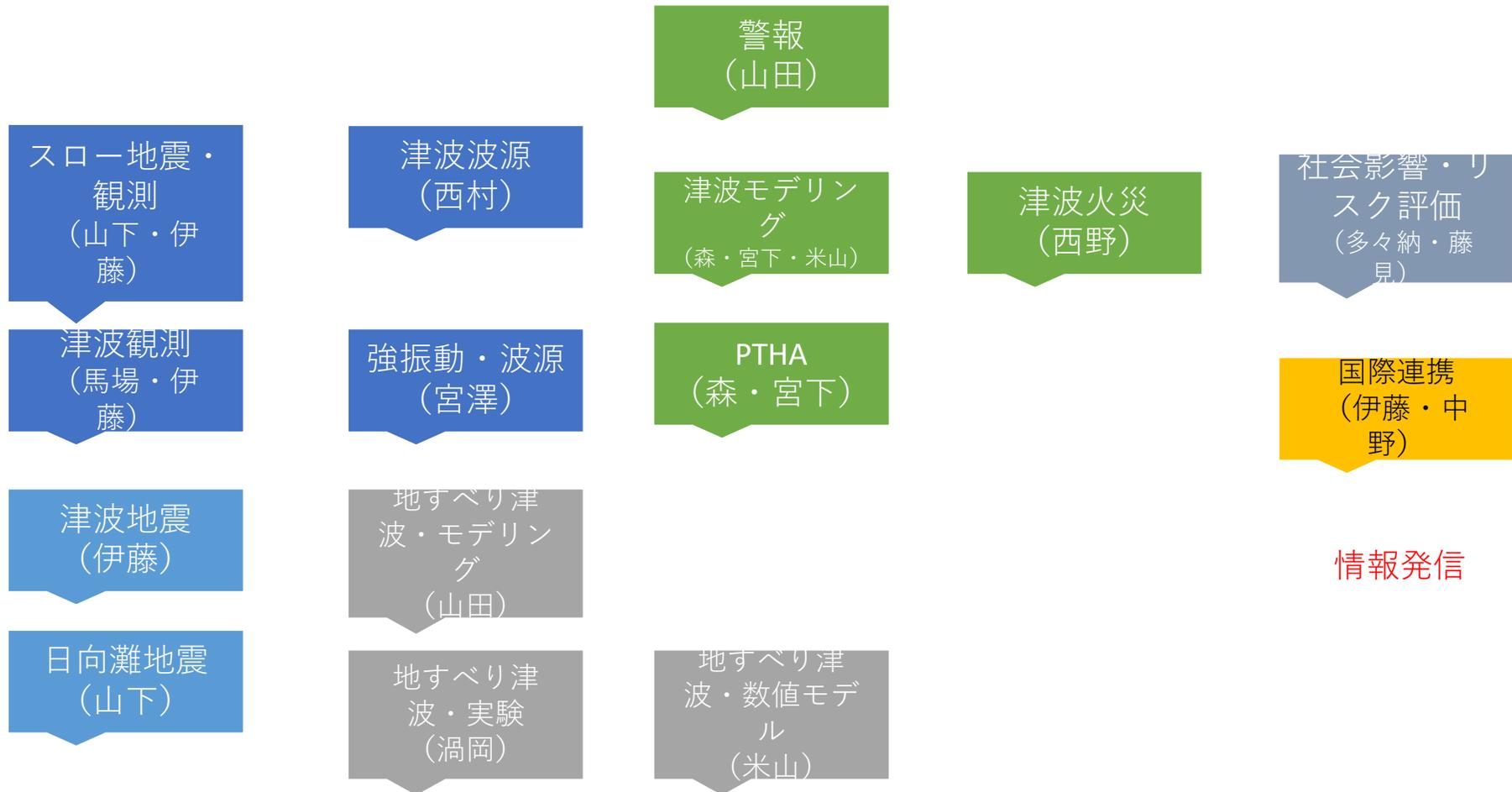
# 南海トラフG



# 社会影響研究G



# ハザード研究G



# 防災研究所70周年記念事業サイドイベント

## 地震津波連携研究ユニット設立セミナー

開催日時：令和3年 11月25日（木） 9:30 – 11:30

開催場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールI

### 内 容

趣旨説明	平石哲也	9:30-9:35
ハザード研究サブグループ		
地震発生メカニズムと確率評価	西村卓也	9:35-9:50
津波のモデリングとハザード評価	森 信人	9:50-10:05
南海トラフ研究サブグループ		
津波に伴う火災被害	西野智研	10:05-10:20
日向灘地震津波の歴史とリスク	山下裕亮・中野元太	10:20-10:35
社会影響研究サブグループ		
ハード防災整備の社会インパクト	藤見俊夫	10:35-10:50
地域防災への活用と事前復興	牧 紀男	10:50-11:05
質疑・討論		11:05-11:25
総括	矢守克也	11:25-11:30
司会・進行	米山 望	

70 anniversary Side Event –

Set-up Seminar of Joint Research Unit for Tsunami Hazard

Date : November 25, 2021, AM 9:30-11:30

Place; International Hall 1, Clock Tower Memorial Hall, Kyoto University

Contents

Opening address	T. HIRAISHI	9:00-9:05
Presentation from Sub Groupe for Hazard Research		
Estimation of tsunami source areas based on geophysical observation data	T. NISHIMURA	9:35-9:50
Earthquake tsunami hazard assessment	N. MORI	9:50-10:05
Presentation from Sub Groupe for Nankai Trough Research		
Quantitative tsunami fire hazard assessment towards a reconsideration of tsunami countermeasures based on multi-hazard risk assessment	T. NISHINO	10:05-10:20
Reassessment of earthquake and tsunami potential and its social implementation in the Miyazaki Prefecture	Y. YAMASHITA & G. NAKANO	10:20-10:35
Presentation from Sub Groupe for Social Impact Research		
Socio-economic impacts of earthquake and tsunami hazards	T. FUJIMI	10:35-10:50
Collaboration with local communities; Case in Wakayama prefecture	N. MAKI	10:50-11:05
Discussion		11:05-11:25
Closing address	K. YAMORI	11:25-11:30
Chair	N. YONEYAMA	